

論 文

外来看護記録用紙に立体像モデルを取り入れた効果

— 糖尿病患者の継続的生活指導より —

宝住 由香・中田 弘子・橋場 芳美・八田 里美

(社会保険鳴和総合病院外来)

Effects of the use "RITTAIZOU - MODEL"

in nursing records at outpatient clinic

— In continuing patient education for diabetes mellitus —

Yuka Houzumi, Hiroko Nakada, Yoshimi Hashiba and Satomi Hatta

Outpatient clinic of Naruwa Social Insurance Hospital

要 旨

外来患者の生活指導は、患者と短時間の関わりで患者の持つ生活上の問題点を判断し、効果的に行なう事が要求される。その為には看護記録が重要な役割を果たすと思われるが従来の外来看護記録用紙は患者の問題点が捉えにくく、生活指導に生かせない現状があった。

そこで、薄井の立体像モデルを外来看護記録用紙に取り入れ糖尿病で通院中の患者30名の内10名に活用し継続的に生活指導を実施した。従来の方法と情報収集に要した時間と生活指導の効果について比較、検討した。

その結果、

- ①患者の問題点が捉えやすく、従来の方法より短時間の関わりで、生活指導が開始出来た。
- ②HbA1Cが有意 ($P < 0.05$) に低下し、より効果的な生活指導が出来た。

以上、看護記録用紙の工夫が外来での継続看護に大きく影響している事が確認出来た。